

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第33号 2006年12月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2007年 新年会開催のご案内

2007年度新年会を1月8日(月・祝)に「こまばエミナース」において下記の通り開催します。

恒例の第一部講演会では、今回は奥島孝康前早稲田大学総長をお招きして、新春に相応しいご高説を拝聴することと致しました。ご家族を含めて多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

なお、奥島前総長よりは、『早稲田人の心の原点「都の西北」』と題して母校や校歌にまつわる興味深いお話が伺えるものと期待されます。これまで会費を負担されながら何れの会合にも出席されなかった会員の皆様には、或は久し振りに心の琴線に触れる様な母校の話が伺えるものと思います。是非お気軽にお出掛け下さい。

日時 2007年1月8日(月・祝)

受付開始 15時30分

講演会 16時～17時

講師 奥島孝康氏

演題 早稲田人の心の原点「都の西北」

懇親会 17時～19時

会場 こまばエミナース

目黒区大橋2-19-5

電話 03-3485-1411(代)

井の頭線 駒場東大駅

(下北沢寄り改札口 徒歩7分)

会費 8,000円(同伴家族5,000円)

(当日会場受付にてお支払い下さい。)

☆当日送迎バス(こまばエミナースのマイクロバス)を運行致しますのでご利用下さい。

①目黒駅付近 15時10分発

(目黒通りみずほ銀行前付近)

②中目黒駅付近 15時20分発

(山手通り・ツタヤ前付近)

☆同封の返信用葉書を12月10日までにご返送下さい。なお、送迎バスご利用の方は葉書に利用番号(①又は②)を明記して下さい。



講師のプロフィール

奥島 孝康氏

前早稲田大学総長。

昭和14年(1939)生まれ。

昭和38年(1963)早稲田大学第一法学部卒。

昭和51年(1976)同上法学部教授。同年法学博士。

同年より3年間パリ大学交換研究員。

昭和56年(1981)以降 教務部長、図書館長
法学部長歴任。

平成6年(1994)早稲田大学第14代総長。

その他 世界各地の大学の名誉博士号多数、中国人民大学、復旦大学及び清華大学各名誉教授。日仏法学会理事、日中法学会理事長、日本私立大学連盟会長ほか会長、理事長職多数。文部科学省中央教育審議会委員等。

著書 「現代会社法における支配と参加」「フランス企業法の理論と動態」「現代企業法の理論と動態」「私の大学論」「進取の精神」ほか著作、論文等多数。

(島田 記)

稲門祭 大隈庭園で校友の集い開催

10月22日(日)、母校早稲田大学の隈庭園、西早稲田キャンパスにおいて、校友のお祭り「稲門祭」が開催されました。

東京都23区支部では、毎年恒例の大隈庭園の園遊会に参加し、各区稲門会からの模擬店で、江戸前寿司・銘酒・おでん・焼肉が所狭しと立ち並び、全国から集まられた校友の皆様で、大盛況の一日でした。

中央に作られた芝生の上のステージでは、渋谷稲門会、中野稲門会の会員によるジャズバンド、カントリー&ウエスタンの演奏で賑わいました。

目黒稲門会では、会長、幹事長そして多くの先輩方が、こちらも恒例の大宴会を、芝生の上で開催して、大いに盛り上がっていました。



秋晴れの空の下で、全国から来られた校友の皆様が、庭園の芝生の上で車座になり、懐かしそうに歓談されているお姿が、まさに「心の故郷、早稲田の杜」でした。

そして、校旗を先頭にした応援部現役学生による「チアリーダーズパレード」20名程の女子学生による応援と「紺碧の空」の大合唱に、神宮球場の早慶戦を思い出された方もおられたことでしょう。



最後は応援部の指揮で、右手を高く挙げ、「都の西北」を斉唱しました。来年は、ご家族ご友人とぜひ母校早稲田へおいで下さい。125周年です。

また来てね

**来年へ、つなげ！
エンジの禰**

23区担当幹事 大竹 一子

会員の消息

(新入会員)



鷓野 洋治氏
昭和39年 一商 趣味 旅行・音楽
ハイキング・麻雀
囲碁・将棋

目黒稲門会があるとは聞いていましたが、是非お仲間入りをしたいと思います。商事会社に勤めておりましたが、現在 first semesterのみ大学の非常勤講師をしています。



樋口 俊彦氏
昭和40年 文

黄昏の団塊世代ですが自分としてはこれからだと思っています。



後藤 克彦氏
昭和42年 文 趣味 旅行・美術鑑賞

部会への参加を楽しみにしております。



小谷 友宏氏
昭和44年 政経 趣味 ゴルフ・読書



鈴木 徹氏
平成11年 理工 趣味 オートバイ運転
簡単な料理

地域別稲門会としては、若輩者となりますが、宜しくお祈りします。

佐藤 喜孝氏
昭和40年 政経 趣味 俳句・ゴルフ

嶋田 勝彦氏
昭和41年 法 趣味 旅行・グルメ
麻雀・野球指導



訃報

小山 宙丸氏
目黒稲門会顧問・元早稲田大学総長
去る9月22日逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

特別寄稿

早大雄弁会 私の原点

手塚 仁雄（平成2年文）

2006年6月24日、慶応義塾大学三田演説館。福沢諭吉によって建設された日本初の演説会堂で行われていたのは、毎年恒例の早慶新人弁論大会でした。「浪人の時ぐらい、後輩の面倒を」と、早大雄弁会の先輩に要請され、私は審査員をさせて頂きました。大隈講堂と三田演説館と交互に開催される大会。私にとってちょうど20年前、門を叩いた雄弁会での最初の晴れ舞台となったのは、この荘厳な演説館でした。

自らの政治家としての原点に思いを致しつつ、故竹下登氏や故小渕恵三氏、さらには森喜朗氏らの総理をはじめ、あまたの政治家を輩出してきた早大雄弁会の実像をしたためたいと思います。

まず何より特筆すべくは雄弁会の入会基準。早大生であれば誰でも入会出来ることになっているものの、その敷居の高いこと。ほとんど入会希望者の第一声は「政治家になりたい」か「男を磨きたい」というものです。前者については「雄弁会は政治家養成サークルじゃない」と一蹴し、後者については「だったら応援団の方がいいぞ」と、一般的な新生を歓迎するムードは皆無なのです。

100年の伝統を誇る雄弁会は、あくまでも「自らの社会に対する問題意識を弁論を通じて世に普遍化する会だ」と。しかし、大学に入学したての青二才で社会問題をしっかり論じられる者はいませんし、少しかじったことを話せば、それこそ先輩に直ぐ様に論破されて「出ていけ！二度と来るな！」になってしまうのです。

私の入会当時でいえば、約200人の新生が門を叩き、結局入会を許されたのはその1割以下で、何度帰されても足繁く通った意地っ張りの学生集団という印象でした。良くも悪くもこの敷居の高さが雄弁会の特徴で、自らが発する言葉の緊張感は卒業するまで続くことになるのです。この厳しさこそ、体育会系のサークルでもなく、団体で何かを競うわけでもないのに、会員同士の絆が生涯に渡って続く背景なんだと思います。

同期で雄弁会を卒業して国政にまで駒を進めることが出来たのは私のみです。しかし、学生時代の厳しさが嘘のように、この仲間が本当に温かいのです。それぞれが自らの人生を全うしながらも、いつも私の活動を気に掛けてくれ、あたかも学生時代に抱いた青雲の志をお前に託しているぞとの思いが伝

わってきます。

どうしても紹介させて頂きたいのが、目黒稲門会にも縁を頂いた松田哲也君のこと。20年前に松田君が雄弁会の幹事長、私が副幹事長を務めた関係ですが、私が国会の議席を得た時から今日まで私の秘書を務めてくれています。まさに肝胆相照らす彼と今になって人生の団体競技を共に戦っている気分させられるのです。一人で歩くには険し過ぎる道。それぞれの原点を承知しているからこそ共に歩を進めることが出来るのでしょう。

最後に、今もそらんずることが出来る「雄弁会会旨」を紹介したいと思います。

我が早稲田大学雄弁会は
経国済民の志を有する
情熱と実践力とに溢るる
学生の集まりであって
大隈老公建学の精神たる
学の自由と独立とを死守し
雄弁技術の演練と
理論の究明と
社会的実践とを通じて
発展して止まざる
日本国家並びに社会の進運に
寄与せんとするものである

1日も早く国政復帰を果たしたいという思い。政権交代を実現して税金の使い道を改めたいとの思い。浪人生にとっての思いは募るばかりですが、社会の進運に寄与したいとの思いを原点に、中原に鹿を逐い続けて行きます。

会員の広場

早実悲願の優勝！ 早大3季ぶり優勝！

石川 智子（平成7年文）

我らが早稲田実業優勝、おめでとうございます！高野連会長が「球史に輝く決勝」と讃え、日本中が祈る思いで見守った決勝再試合、その夏の日……。



大山副会長からのメールをきっかけに、球児の健闘を讃える祝勝会を呼びかけたところ、当日発案にも関わらず、会長はじめ22名が「静安」に集合。野球部OB松岡さんの試合解説で勝利を噛み締め、後輩の爽やかな活躍を喜び合い、紺碧の空→校歌→早稲田の栄光を熱唱。目黒稲門会の意気も高らかでした。

勇んでかけつけた皆さんも、欠席ながら喜びのメッセージをお寄せ下さった方々も、心は一つ、母校万歳！！下半期に向けて、思いがけない嬉しい新出発となりました。諸先輩方の抜群の行動力・団結力に改めて敬意と感謝を表します。

そして10月。秋の国体でも早実が優勝。

さらに早大も秋季リーグ戦優勝。

重ねがさね早稲田野球おめでとうございます。

美術・歴史鑑賞部会に参加して

杉浦 良允（昭和41年 政経）

以前よりこの会には興味を持っていたのですがなかなかスケジュールが合わず今回やっと参加できました。

私は学生時代より美術に興味を抱き、また実際に制作もしていました。しかしその分野は現代アートに属するものでとても職業として成立するものでもなく、だからといって一般的な企業に就職する気にもなれず、卒業と同時に小さな広告制作会社に縁あって入社し、デザイナーとして一から出発し、やがて現場を離れ、管理職として定年を迎えました。

その間もアート、造形、建築などへの興味は尽きず早く職場を離れてもう一度制作の世界に戻りたく準備もして、現在は創作に邁進しております。

「ビュフェ美術館探訪」の案内を見て少々驚きました。今までビュッへの作品をまとめて展示している美術館が日本にあるとは正直知りませんでした。確かに最近では国内旅行をする中で行く先々で観光名所としてたくさんのお大小美術館があり、思わぬ作家との出会い、新しい発見をしたり、感動し触発を受けることも多々ありました。

さてこのクレマチスの丘のビュフェ美術館は個人のコレクションとしては大変素晴らしいと思います。若き時代、戦中、戦後、現代と年代に沿うような展示室の構成やこの作品はこう観てほしいといったユニークな会場設計がなされ、画家の全貌が見事に演出されていて大変興味深かった。

生涯で1万点以上描いていたことに驚かされ、それぞれの画面からは制作時の画家の精神のありよう、対象の捕らえ方、色彩、筆致の勢い等がつぶさに見られ大変参考になりました。

リレー随筆

セキュリティと使い勝手

小杉 哲（昭和41年 理工）

物騒な世の中になったためか、『セキュリティ』と言う単語にお目にかかることが最近とみに多くなった。小生自宅の近辺は『空き巣銀座』と呼ぶ人もいるほどで、警備会社とセキュリティ契約をしていない家はごくわずかである。小生は以前勤務先で情報関係のセキュリティに携わり、現在はパソコン教室でインターネット等のセキュリティ等を教えているので、浅学ながらセキュリティについて少し書かせて頂きたい。

そもそも『セキュリティ』は外来語で、辞書には『安全。また、保安。防犯。防犯装置。』（大辞泉）とでている。パソコン教室では『自分の財産（情報等）を守ること。』と易しく説明している。小生が作成に携わった日本工業規格（JIS）では『通常、適切な行動をとることにより、事故又は悪意に基づく行為からデータおよび資源を保護すること。』（JIS X 0008）と非常に難解に定義されている。JIS用語は出来るだけ和文で表現することとなっているが、securityに対する適切な和文がないため例外的にカタカナ表記となった。水、空気、安全はタダと言われていた我が国では、セキュリティはあまり重要視されなかったため適当な和文が無いのかも知れない。

さて、セキュリティは『目的にあったレベルのセキュリティ』を施すことが非常に重要である。なぜならセキュリティと使い勝手（利便性）は天秤の両方の錘の関係だからである。セキュリティを高めると確かに安全にはなるが、逆にそれだけ使い難くなる。生徒さんには自宅の戸締りや鍵を例にあげてこれを説明している。小生の田舎（新潟県佐渡）では、夏の夜には戸締りもせず縁側を開けっ放しで寝たものである。勿論当時はクーラーなど無いから寝苦しくなると縁側で涼んだものである。ところがこの頃はピッキングによる被害も多く、玄関の鍵を何重にもかけているお宅も多い。トイレを我慢して自宅に駆け戻り、いくつもの鍵を探すのに手間取り苦い経験をしたのは小生だけか。

インターネットの世界でもウイルス、スパイウェア、フィッシングと言うように有難くない危険性が出てきた。この場合にも上述した天秤の関係は全く同じで、ウイルスチェックのためパソコンの動作が遅くなるとか、インターネットのホームページが見えない等の不便が生じることも多い。

完全に安全な世界ではセキュリティは使い勝手を悪くする無用の長物である。安全でセキュリティなどという難解な言葉が不要であった昔を懐かしく思う。

特別寄稿

リタイアメント

杉山 弘（昭和39年 理工）

65歳の完全リタイアがごく間じかに迫ってきた。真剣に考えることもなくなおざりにしてきた老後の生き方について、その準備不足にはたと気がつき、最近なにかと不安とプレッシャーを感じ始めたのである。

15年以上毎月ゴルフを楽しんでいる会の仲間、著名なマネージメント教育の先生がおられ、老後の生き方についてのヒントが「致知」という雑誌にあった。要は、自分が何歳まで元気に生きていくのかという希望を定め、その歳までの年数を三分割し、体力と気力が変化していくそれぞれのステージをなにをしていかに生きぬくかという人生マップを作れ、という提案なのである。すなわち、85歳まではなんとか頑張ろうということならば、これからの約6年×3回のステージをいかにメリハリをつけて生きていくのかということなのである。行動基準もなく、タイムマネジメントもなく、なんの目的もプランもなく、ただ漠然と老後を過ごしてしまうのはなんとももったいないという指摘は至極もつともと思う。そして、残された時間は意外と限られているという重い現実気がつく。

そこで、このマップを作成すべく紙を広げてブレインストーミングを試みるのであるがこれが大変むづかしい。ただただ会社人間であった私には仕事以外に何もなく、これから何かを学び生きがいとして身につけるのは考えただけでも気が重く腰が引けてしまう。サラリーマンは会社を辞めれば気楽なもので、会社に対する責任とか後進の指導育成などという厳しい現実からは全く開放されてしまう。子育てという家族への責任も既がない。出てくる単語とプランは、ゴルフ、スポーツ観戦、海外旅行、食べ歩き、自転車旅行などなど、まさに夢に見ていた娯楽の羅列になってしまうのである。

時間管理が不要で束縛のない自適の毎日は快適ではあろうが、ここで欠けているのは今までお世話になってきた社会や周囲に対していかに役にたち、自分の生きる意義をいかに自覚していくかの観点であることに気がついた。アウシュビッツの地獄を生き抜いた人が、人の役に立つための日々の具体的な行動が生きていくためには重要だったと言っていたのを思い出す。

自分に何が出来るかの棚卸、それらに価値があるのか必要とされるのかの客観的な評価、そしてそれ

らをいかに伝えるかの手段と方法。ここに入り込むとはたと戸惑い、自信がなくなり、具体的なプランの作成のスピードが鈍り止ってしまう。

「少なくとも第一ステージの6年間は人の役に立つことに生き生きと取り組むこと。そして第二ステージはその役に立つことと両立させながら夢に見ていた娯楽の数々を具体的な価値として楽しむこと。そして最後の6年プラスのステージはただただ自適に過ごし、あわよくばエージシュートを達成すること。この基本構想を詳細プランとして策定し、早急に行に移すこと。」

このプランが固まるまではどうも落ち着かず気が重い。何かの時にふと思い出す。ゴルフの時にこれが頭をよぎるとなんでもないパットをはずしてしまう。やっかいなことになったと思いながらも、開放された第二の人生を夢見る毎日である。先輩諸兄にも教えを請わねばと思っている。

各部会からの報告・案内

美術・歴史鑑賞部会

9月15日、参加者32名は富士山麓にある「ビューフェ美術館」「井上靖文学館」と御殿場市の「秩父宮記念公園」を訪ねました。

まず、ビューフェの作品に絞って展示をしているスペース豊かな美術館に感動し、井上靖文学館では、小説「氷壁」の原稿に往時を偲びました。秩父宮記念公園では、檜（ひのき）の香りに満ちた林を抜けて歩く贅沢を味わい、秩父宮の生きた激動の昭和史に思いを馳せました。

帰途のバスは、全員が昭和史、ビューフェなどについて語り、話題が尽きませんでした。盛り上がったその雰囲気、月岡さん（さいたま稲門会より参加）の短歌を借りて報告します。

「感想も 個々の切り口 幅広く
余情確かめ 秋にうなづく」



部会長 八幡 和二郎

麻雀部会

(1) 第15回三区連合親善麻雀大会

8月26日(土)渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて渋谷稲門会主催による三区(渋谷・世田谷・目黒)連合親善麻雀大会が開催されました。

半チャン4回の親睦を深めた競技の結果、優勝は世田谷の草野氏でしたが、目黒は土方氏が三位、鈴木氏が4位、本田氏が5位と健闘しました。

(2) 第27回定例麻雀大会

10月1日(日)武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて本年第3回目の定例麻雀大会が開催されました。和気藹々の競技の結果、優勝は本田、準優勝は松尾、三位は上村の各氏でした。

(3) 今後の大会予定

12月17日(日)12:30より、恒例の年末定例麻雀大会を武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて開催予定しております。(終了後は近く中華料理店で忘年会)

また新年第1回の定例麻雀大会は2月18日(日)を予定しております。皆様奮ってご参加ください。

部会長 松尾 洋一

カラオケ部会

毎月第2金曜日が定着しました。

9月8日カラオケ終了に「同期の桜」が恒例でしたが、荒瀬氏の発案により第88回高校野球夏の甲子園大会に早稲田大学系属 早稲田実業学校(高等部)の初優勝を祝して、紺碧の空・早稲田大学校歌を以って締め終了しました。

カラオケで、台詞を苦手とする者多々あり、何となくギコチナイ。或先輩に「画面の文字を追って駄目だ、台詞は暗記して自然体で行けば良い。」と言われてはいるが、そうは問屋が卸さない、全く難しい。矢張り数をこなすより仕方ないか?

平成18年度高齢者の集い(傘寿)のパーシモンホールで、目黒区敬老作文集の代表作小学生2・4・6年生の朗読がありましたが孫と祖父母との会話の表現力が実に妙を得ており、暮らし其の儘の会話で感心させられました。台詞を苦手とする者、小学生に負けてはおられぬ、頑張ろう!

平成18年度上半期(4月~9月)6ヶ月

参加者合計 82名(男性60名:女性22名)

月平均 約14名

カラオケ部会も軌道に乗ってまいりました。

カラオケ部会員はウォーキング部会にも積極的に参加し、身体にも健康に気を配っております。

部会長 海口 昭治

囲碁部会

第7回稲穂会が9月24日(日)早大新学生会館で早稲田校友、教職員、学生囲碁会の64名が参加して開催された。今回は東京都23区とともに三多摩23区からの参加もあり、より充実した大会となった。

A~Hまでの8クラスで激戦がたたかわされたが、目黒は中堅の郡山弘文(27年商)伊藤源喜(29年理工)、保井正(34年政経)が出場し、4位5位4位の戦績であった。

次回は早稲田大学創立125周年記念として「オール早慶囲碁フェスタ」が平成19年10月28日(日)早稲田中高体育館で、125の碁盤を並べて行う一大イベントが企画され、稲穂会は休止となる。

また19年6月9日(土)に第7回オール早稲田囲碁祭(5人一組の団体戦)が開催することが決定している。

今後の日程

平成18年12月4日(月)

下目黒住区センター 午後1時~5時

部会長 保井 正

ウォーキング部会 (鎌倉花散歩の会)

第6回は9月22日ハギ、ヒガンバナ、コスモスなどの花見のコースを参加者12名で予定通り12,000歩前後で歩き、源頼朝の菩提寺である寿福寺では、実朝、北條政子の五輪塔をお参りました。

<今後の開催予定>

・集合は現地駅、午後1時(現地小雨決行)

第9回 12/11(月) 鎌倉駅東口

— 鎌倉の自然と歴史が楽しめる天園ハイキングコース— (相模湾、富士山が一望にでき、鎌倉屈指の紅葉を楽しみ、森林浴を満喫できます)

瑞泉寺—貝吹地藏—天園休憩所—太平山—百八やぐら—朱垂木やぐら—十王岩—建長寺半蔵坊
・2007年1月は休会

第10回 2/27(火) 北鎌倉駅正面口

— 早春に梅の香に誘われて名所を訪ねる —

円覚寺—東慶寺—明月院—建長寺—十二所果樹園—明王院—浄妙寺

お気軽にお出かけ下さい。



部会長 桑野 祐光

グルメ部会

○ ビアパーティー

8月9日 台風一過の爽やかな夏の夕暮れ、恵比寿ガーデンプレイスの『ビヤステーション恵比寿』にて2006年ビアパーティーが開催されました。

開会にあたり、加藤会長が一言述べた後すぐに乾杯となり、皆、乾いたのどにグイッと生ビールを流し込みました。

そして次々とお料理が運ばれ、それぞれ好きな飲みものを注文しはじめ、和やかな会話で部屋中がにぎわいました。

後半では、恒例となった(空くじなしの)福引きで、驚きあり、笑いありで、大いに盛り上がりました。

最後に、荒瀬相談役と土川副幹事長の音頭で、皆で校歌を高らかに斉唱してお開きとなりました。

今回は目黒稲門会の部会に初めて参加なさった牧野武夫さんをふくみ、31名が出席なさり、大盛況でした。

○ 新そば会

10月3日と7日、二日にわたり目黒稲門会グルメ部会 毎年恒例の「新そば会」を開催いたしました。麻布十番の「更科堀井」は、今年で創業217年。その八代目である堀井良造会長(目黒稲門会会員)が、店の歴史「蕎麦の蘆薈」を披露してくださり、まずはお勉強。

次に、皆さんお好きな飲み物を注文しましたが、この店の蕎麦湯で割った蕎麦焼酎が大評判で、お代わりが多かったこと!

メニューは、①蕎麦粉を原料とした色とりどりの前菜盛り合わせ、②薫り高い松茸のつゆ蕎麦、③甘みのあるお豆腐、④ふわとした蕎麦がき、⑤芸術品のように美しい蕎麦寿司、⑥店ご自慢のかき揚げ天ぷら、⑦季節の「菊蕎麦」と「もり蕎麦」で、コースを一段落。引き続き、好きなおそばを食べ放題となりました。各人「もり蕎麦」、「太打ち蕎麦」、「更科蕎麦」、「菊蕎麦」を注文し、新蕎麦を堪能しました。最後のデザートは、そば粉のおもち入りのお汁粉で、ご夫人方にも大好評でした。

二日間で合計34名が参加なさいましたが、部会に初めて参加なさった目黒稲門会会員の成瀬邦雄さん、佐藤喜孝さん、そして樋口さんがお連れになった牟田さん(未来会員候補)も、これから色々な部会に積極的にご参加頂き、楽しい友情の輪を広げて行って頂きたいと思っています。

部会長 海沼 美智子

ゴルフ部会

10月24日に第19回ゴルフ会を、阿見ゴルフクラブに於いて行いました。生憎の雨でスタートを躊躇しましたが、始めてみると次第に小やみになり、無事1ラウンド行ることが出来ました。優勝は伊藤悠氏、二位は加藤会長、三位は吉田事務局長という結果になりました。伊藤悠氏の優勝は2回目ですが、2、3位のお二人は最近に無い好成績でした。

コンペパーティーでは、入賞者はもとより、各賞や馬券が大当たりの人も大喜びで、雨の中でのプレーのことは忘れて盛り上がり、バスに乗り帰路につきました。次回は5月頃に予定いたします。



部会長 大野 利幸

目黒・若手会

多くの先輩方の激励、応援(そして圧力)の中、ついに第一回目黒若手会の開催にこぎつけました! 幹事の小林一光さん・石川智子にて呼びかけ、総勢9名、延々4時間、実に多彩な話題が弾けました。

実はこの若手会、幻の第一回目は、なんと地震による交通機関不通で中止という不幸な過去を背負っておりました。この呪われた誕生を覆してあまりある、今回の賑やかな集いをご報告させていただきます!

場所は目黒駅すぐ、沖縄料理『なんくるないさー』。目黒稲門会入会予定のナイスガイ・渡辺剛さんをはじめ、目黒外からも女性2名、男性1名の新メンバーを迎え、尾崎充さん、伊藤悠さん、そして若手会発足当初から相談役として面倒を見てくださる中西千可



子さんが参加。仕事、友人、恋人、失恋、見合いパーティー近日開催ニュースなど。
あっという間にフレンドリーな雰囲気になったのは、やはり『早稲田』だから？

さあ、若手会の歴史はこれからです。次回は忘年会or新年会。今回残念ながら参加出来なかったメンバーも一緒に盛り上がっていきましょう。

担当幹事 石川 智子

三土会

都合により当分の間 次の要領で 開催いたします。

日時：毎月第3金曜日午後6時より

会場：「松喜」

住所：目黒区下目黒2-20-23 第一高田ビル2F

電話：03-3490-7060

会費：4,000円

以上です。奮ってご出席下さい。

世話人 土川 俊雄

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧ください、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。 平成18年11月現在

部会名	部長 担当幹事	連絡先 電話/Fax	参加人数	当日会費 (年会費ナシ)	活動概要
囲碁	保井 正		10数名	500円	毎月1回(下目黒住区センター)
カラオケ	海口昭治		10数名	3,000円 女性1,000円	毎月 第二金曜 午後4～7時 (コートダジュール学芸大学店B1)
グルメ	海沼美智子		20～30名	6,000円～ 10,000円	年3回程度 リーズナブルな金額 と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸		20～30名	25,000円程度	年2回 春秋 目黒通りバスで送迎 別途 秋に総長杯
ウォーキング	桑野祐光		20～30名	なし(各自負担)	シーズン中は毎月1回程度
麻雀	松尾洋一		10数名	3,000円	年4回 武蔵小山サン 他区稲門 会との連合親睦大会(年3回)
美術・歴史鑑賞	八幡和三郎		10数名	その都度	年数回
旅行	井村正陽		10～20名	その都度	年2回 春秋
目黒 若手会	石川智子		数名	5,000円	年数回 土曜夜 若手・準若手
三土会	土川俊雄		10～15名	5,000円	毎月 第三土曜 午後6～9時
広報HP	中西千可子	eメール URL	meguro_tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/		

皆様のご寄稿をお待ちしています。

「部会参加感想」・「エッセイ」・「紀行文」・「珍しい話」
「耳よりの話」・「思い出話」・「体験談」・「好奇心を操る話」
「話題になる話」などなど何でも結構です。どうぞ気軽にお寄せ下さい。

(但し、政治色・宗教色の強いもの、他人のプライバシー・人権に関わるものなどはご遠慮下さい。)

字数：○「会員の広場」400字～800字程度

○「特別寄稿」1000字～1500字程度
(写真1枚 挿入可)

様式：パソコンでeメール「添付」

又はプリント、手書き

(何れも、横23字で行替え願います。)

ご希望あれば、原稿用紙をお送りします。)

原稿締切日：07年1/6、4/7、7/7です。

送り先：表題に記載の事務局(吉田博行)宛

eメール：meguro_tomonkai@nifty.com宛

編集後記

有難いことに、今号は頂いた原稿で紙面が不足し、一部を文章の短縮や次号掲載にさせていただきました。一方、編集委員は各自の仕事や都合を遣り繰りして、発送までの諸作業をやっており、取材活動などは不可能なので、経験豊かな会員諸兄の積極的なご投稿なしには内容ある楽しい会報は出来ません。また、制作費は貴重な会費を原資としていますので、委員会は何時もコスト意識を念頭においています。写真掲載は、紙面を華やかにしますが、印刷費用は高みます。そこで掲載する写真を委員が拡大・縮小、トリミング・合成などを行って印刷に回します。更に文面も当初は、手書き・ワープロ原稿をそのまま印刷所に出しましたが、今は執筆者に原則としてパソコン使用をお願いし、その他は委員が入力・変換作業をして、フロッピーディスクに書き込んで出稿するなど、写真多用傾向にある費用の増加を抑えています。

(外岡 記)